

あとがき

＜編集顧問＞

太田 保世
諏訪 邦夫
広沢 弘七郎
堀江 孝至
村山 正博

＜編集委員＞

相澤 久道
石坂 彰敏
和泉 徹
小川 聡
永井 良三
三嶋 理晃

＜編集協力委員＞

赤石 誠
赤柴 恒人
北風 政史
近藤 哲理
中沢 潔
(五十音順)

今月号の特集は、呼吸器、循環器の合同企画です。このような合同企画が創刊以来の本誌の特色であり、呼吸と循環の機能を総合的にみていこうとする姿勢で行っています。今回の特集の企画にあたってまず念頭にあった疾患はCOPDです。COPDは合併症、併存症の多い疾患として知られており、近年では全身疾患であると定義する人もいます。そのなかで特に多いのは循環器疾患であります。また、日常の診療において大変多い訴えに「呼吸困難、息切れ」があり、それが呼吸器に原因があるのか、循環器によるものか迷うことは多々あるのではないかと思います。そういうことが普段から興味があったので、今回特集として組んでみました。

最も強調したかったのは、臨床的には当然「呼吸困難・息切れ」を主訴として受診した患者の鑑別の進め方の最新のまとめであります。基礎的な機序として、心と肺の機械的なインターアクションによる相互の悪化機序だけでなく、共通する素因や危険因子を基にした両疾患の併存、そして全身的な炎症反応のなかでどのような機序で呼吸器疾患と循環器疾患が発症してくるのかということに興味がありました。今回の論文を通じて改めて呼吸と循環はそれぞれ独立して機能しているものではなく、相互に強く依存しあっているものであり、両方を診ながら治療していくことが大切であると感じました。

そこで、毎回のことながら呼吸機能検査の普及を推進していく必要性を強く感じました。これまで日本呼吸器学会としてもいくつかの試みを行ってききましたが、今回医療関係者だけでなく、一般市民へも呼吸機能検査を身近なものとして呼吸機能を理解してもらうために、「肺年齢」という概念を提唱しました。日本人男性のFEV₁の正常予測式は、 $FEV_1(L) = 0.036 \times \text{身長}(cm) - 0.028 \times \text{年齢} - 1.178$ であり、この式を年齢について年齢 $= [0.036 \times \text{身長}(cm) - 1.178 - FEV_1(L)] / 0.028$ と変換し、被験者の身長と実測したFEV₁値を代入すると、その人の呼吸機能的な年齢が算出されるので、これを肺年齢とします。肺活量ならわかるが、1秒率や1秒量という呼吸器専門以外の人には決して理解しやすいものではないようです。現在では血圧だけでなく、血糖値やコレステロール値でさえ一般人の常識になりつつあります。さらに昨今では、これまで素人にはわかりにくかった骨や血管の状態を、骨年齢や血管年齢という概念で説明することも行われています。「肺年齢」が呼吸機能検査をより身近なものとし、呼吸器疾患の啓発や禁煙の動機づけに活用されることを切に望んでいます。

(相澤久道)

呼吸と循環 (第56巻 第1号)

2008年1月15日発行(毎月1回15日発行)

定価 2,730 円(本体 2,600 円+税 5%)

(2008年、年ぎめ予約購読料 31,800 円)
(税込み、配送料弊社負担)

E-mail: kotojun@igaku-shoin.co.jp

Web <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kotojun>

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5703

(担当: 菊池・山崎)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693 番

印刷所 三美印刷株式会社 電話 (03) 3803-3131

広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

ICLS<株>日本著作出版権管理システム委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の許諾を得てください。